科目名	解剖生理学 II	科目分類	□基礎教育科目　■専門教育科目 ■卒業必修 ■栄養士必修 □選択
英文表記	Human Anatomy and Physiology II	開講年次	■１年 □２年
ナンバリング	HB112G	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
ふりがな	おおにし　てつお	授業形態・修得単位	2 単位
担当教員名	大西 哲生	実施方法	■対面のみ　□遠隔のみ □対面・遠隔併用
		実務家教員担当科目	
授業のテーマ	人体諸器官の解剖学的特徴（構造）および生理学的特徴（機能）について理解する。		
授業概要	前期開講科目解剖生理学I「続き」となる本講義では、人体を各器官系統に分け、それらを構成する各器官の形態と構造およびその機能について解説する。		
到達目標	① 人体および各種器官系の構造上の特徴をイメージとして理解し、各部の名称を覚えるとともに説明できる。 ② 生体の恒常性の維持の仕組みを理解したうえで説明ができる。		
授業時間外の学習	次から次へと新しい情報が大量に出てきますので、講義の前に資料（ポータルサイト経由で事前配布する）に目を通し、よく理解できない事項を整理してから臨むこと。常に復習（週に最低でも45分程度）を心がけ、分からない部分は図書館等で調べたり、教員に質問するなど自発的な努力が求められる。勉強で重要なのは、「根気」、「反復」、「脈絡の意識」です。		
履修条件	前期に開講された基礎教育科目「生物学」「化学」「有機化学」および専門教育科目「解剖生理学 I」の内容をマスターしていることを前提に講義を行うので、不十分な点、不得意な点がある方はきちんと復習してから臨むこと。途中で諦めて投げ出さないこと。		

授業計画

第１回	テーマ：循環器系 I～心臓の構造と機能～
第２回	テーマ：循環器系 II～血液の循環、血管の構造、血圧、循環調節機構～
第３回	テーマ：呼吸器系 I～気道と肺の構造と機能～
第４回	テーマ：呼吸器系 II～ガス交換と呼吸調節～
第５回	テーマ：腎・尿路系 I～腎臓の構造、尿～
第６回	テーマ：腎・尿路系 II～腎臓の機能、電解質調節～
第７回	テーマ：腎・尿路系 III～腎臓の機能、血圧調節、酸塩基平衡～
第８回	テーマ： 神経系 I～神経系の特性、体性神経、自律神経～
第９回	テーマ：神経系 II～神経系における血液循環、感覚～
第 10 回	テーマ：内分泌系 I～ホルモンの分類と作用機序、分泌調節～
第 11 回	テーマ：内分泌系 II～ホルモン各論①、下垂体ホルモンなど～
第 12 回	テーマ：内分泌系 II～ホルモン各論②、副腎ホルモンなど～
第 13 回	テーマ：生殖器系 I～生殖器の発生と形態～
第 14 回	テーマ：生殖器系 II～性周期、排卵、妊娠と分娩～
第 15 回	テーマ：皮膚の構造と機能、体温調節
第 16 回	定期試験

テキスト	南江堂　健康・栄養科学シリーズ「解剖生理学」（上嶋・濱田編）（前期開講科目「解剖生理学 I」と共通）
参考文献・資料	適宜紹介するが、同じセクションを別教科書で軽く復習すると理解がより深まる。
成績評価の方法	出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。定期試験の成績 40 点、ミニテスト（途中 3 回を予定）の成績 40 点、取り組む姿勢（積極的に質問する姿勢、「勤勉さ」を含む）20 点で評価します。単位の認定は全回出席を前提として行います。
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)

オフィスアワー	平日随時
受講生に望むこと・受講のルール	解剖生理学Ⅰや生化学と並んで、他の科目と比べて情報量が圧倒的に多いと思われますので、毎回確実に予習復習をする姿勢を維持して講義に臨んでください。前期科目「解剖生理学Ⅰ」「生物学」「栄養学」の基礎的内容について理解していることを前提に講義を行いますにで、特にこれらの科目で良以下の評価だった方は関連項目を十分復習してから毎回の講義に臨んでください。毎回の出席カードで質問を受け付けるので、疑問点・理解できない点は遠慮なく質問すること。中でも将来管理栄養士を目指す方、大学編入を考えている方は必ず優以上の評価を獲得できるよう手を抜かず努力してください。